

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>① 教育課程の編成に工夫を凝らし、生徒の意欲や関心の高揚に取り組む。</p> <p>② 国際社会で生き抜く高い人格と心豊かな感性を備えたグローバルリーダーの育成に取り組む。</p>	<p>① グループ内で情報を共有しながら教育課程改善を進めるとともに授業時間確保の検討を継続する。</p> <p>② クリティカルに考える力を身につけるとともに、異なる他者を受容し協働して課題解決にあたる力の育成を意図して授業研究を行う。</p>	<p>① 数学のセメスター制を定着させるとともに、授業時間確保のために年間教育計画の見直しをする。</p> <p>② 各教科の視点から批判的思考力や協働的な問題解決力の育成について考察し、研究授業を行う。</p>	<p>① 生徒の希望に沿った授業展開が出来たか。また、35週時間の授業時間が確保する計画ができたか。</p> <p>② 研究授業の際に生徒と教科担当者による振り返りを行い、生徒の意識の変化を確認する。</p>					
2 生徒指導・支援	<p>生徒一人ひとりの個性を伸ばすことができる教育支援を実践し、生徒にしっかり向き合った教育体制の充実を図る。</p>	<p>① 教育相談コーナーを中心に、組織的にきめ細かい教育相談体制を整備する。</p> <p>② 多文化理解への柔軟性を高め、グローバルな社会的な課題への認識を深める。</p>	<p>① 月に一度、教育相談コア会議を開催し、問題を抱えた生徒についての情報を共有する。さらに、ケース会議を通じて、その情報を職員全体で共有する。</p> <p>② 多文化への柔軟性を育てるため、ホームステイ等の交流活動を増やす。グローバルな課題への認識を深めるため、グローバルエキスパートレクチャーやグローバルキャンプなどを実施する。</p>	<p>① 教育相談コア会議の場で提示された情報を、職員全体で共有できたか。</p> <p>② 交流活動を増やすことにより、異文化理解への柔軟性を育てることができたか。グローバルエキスパートレクチャーやグローバルキャンプなどを通して、グローバルな課題への認識を深められたか。</p>					

3	進路指導・支援	入学から卒業までの体系化した進路支援の流れを作り、生徒が自らの将来像を見据えて早い時期に目標を定められるよう情報提供を行い、多様で主体的な進路選択を促進する。	進路情報リテラシーを育成すること及び、自己目標発見がタイムリーにできるよう、多様なデータの活用及びフィードバックを行う。	① カレッジセミナー、エキスパートレクチャー、外部講師による進路説明会等を実施する。 ② 校内模試の実施、校外模試・オープンキャンパス・学習ツール等に関する情報や入試情報の提供、データを活用したフィードバックを行う。	① カレッジセミナー、エキスパートレクチャーの実施やオープンキャンパスへの参加により生徒の意識に変革はみられたか。 ② 学習ツールの利用により生徒の学習状況に変化は見られたか。					
4	地域等との協働	家庭や地域社会の教育力の活用を推進し協働することで信頼される学校づくりを推進する。	① 地域と共にある学校づくりをすすめる。 ② 連携する大学と積極的に交流を深める。	① 隣接する二谷小学校や神奈川工業高校、みどり養護学校と連携した活動を行う。また学校行事や防災活動を通じて近隣住民との連携を図る。 ② 担当者を決定し、計画的な活動内容を構築する。	① 各学校との連携が図れているか。保護者や地域住民の理解が得られているか。 ② 生徒に有益な高大連携の情報を提供できたか。					
5	学校管理 学校運営	社会の変化に対応し、意欲的に教育の課題に取り組む学校体制の充実を図る。	① 事故・不祥事防止に向け、職員一人ひとりが意識を高く持つ。 ② 本校の様々な取り組みをホームページで発信する。	① 事故・不祥事防止研修会を定期的に設定し、各グループが時期に合わせて実施する。 ② ホームページによる情報発信を更に充実させる。	① 事故・不祥事防止について、職員が自身のこととして意識して取り組んだか。 ② 迅速かつ分かりやすい情報発信ができたか。					